

はじめに

こんにちは。イメージングフラワーデザイナーの三宅二実代です。

「イメージングフラワーって？」と思われる方も多いと思いますが、これは私が考えた造語。

みなさんは、花を贈るというと、どんなシーンを想像されますか？ 「お誕生日や御祝いなどに贈る花」「ウェディングなど華やかなシーンを彩る花」「人生の最後の花道を飾るお悔やみの花」などでしょうか？

どんな花でも贈られたらもちろん嬉しいですが、自分をイメージしてくれた花を贈られたら、さらに嬉しいですよ？

私は、子どもの頃から空想をすることや、花や占いが大好きでした。でも花を仕事にしたいと思ったことはまったくなくて、最初は趣味で始めました。学生のとときの友人と月に一回会える機会が欲しいな、ちょうどいいお稽古事ないかな？と雑誌をめくっていたところ、「可愛い♡」とひと目惚れしたフラワーアレンジ

がありました。それが後に私の人生を大きく変えるきっかけとなる先生との出会いになりました。

気になったらすぐアクションを起こす私ですが、体験レッスンの電話をしたものの、予約の枠はすでに埋まっているとのことでした。でも偶然そこに先生がいらっしやったようで「二人ぐらいなんとかならないの？」という会話が聞こえてきました。ラッキーなことに二人分のお席を用意していただけたのです。

もしあのとき、もうちょっと考えてから電話しようなどと躊躇していたら、私は花の仕事をしていなかっただけかもしれません。それぐらい私にとっては大切な出会いの一つになりました。そのときの体験レッスンで使用したパステルカラーのチューリップやナチュラルな素材のバスケットなど、どれもなんて素敵なのだろうと感動した思いを今でも鮮明に覚えています。

その後、自分でも予想外の展開でフラワーデザイナーとなり、さまざまな修行を積み独立しました。このお話は、また後ほど書きますね。

いざ独立してみると、当然のことながらお客様は誰もいない、花の仕事をしている人はたくさんいる、そんな中で「何か人と違う特徴を出したい」と思ったときに、自分が市場でピンときて選んだ花がその会場のメインで使われている色だったり、お届けしたお客様が着ているお洋服の色だったりすることが多いことに気がつきました。この感覚をもっときちんと風水や占星術を学び、花と合わせたら素敵になるのでは？ と考えて形にしたのがイメージングフラワーです。

もう一つ、私が花の仕事をするようになって気づいたことは、自分が楽しくワクワクしながら選んだ花や、澄んだ空間に活けられている観葉植物、活けたあとの作品を可愛いね、と褒めてあげたとき、花や植物も喜んでもっと生き生きと輝いてくれるということ。

イメージして、楽しみながら花を選ぶ。そのきっかけになるようなちょっとしたエッセンスをお伝えできたらいいなと思って書いた本です。

最初から、バンバン飛ばしていかなくても、今できる小さいことからまずはスタートしてみる♡ その小さなきっかけが何年後かには、まったく違う景色を見せてくれることになるかもしれないですよ。